

地学と切手



東ドイツの化石切手

P. Q.

ベルリン自然科学博物館所蔵の化石切手6種が1973年2月6日発行された。いずれも古生代から中生代にかけてのヨーロッパの代表的化石である。

10 *Lebachia speciosa* *Lebachia* は球果類 *Lebachiaceae* (レバチア科) に属し 主として北半球の下部二畳紀の地層から産する。

15 *Sphenopteris hollandica* シダ種子類の1種 シダ種子類は葉は羊歯とほとんど同じであるが それに種子をつけている一種独自の植物で 古生代末に大発展をした。多くの学者によって被子植物の先祖と考えられている。化石標本は 茎・葉・種子・小孢子など別々に発見されて別々な名前ではばれている。すなわち *Lyginopteridaceae* (リギノプテリス科) では 茎は *Heterangeium* または *Lyginopteris* 葉は *Sphenopteris* 種子は *Lagenostoma* 雄花器は *Crossothea* とよばれる。

20 *Pterodactylus kochi* 翼龍目 *Pterosauria* (空中を飛ぶように適応したは虫類) の1種 テロダクテラスというのは「翼の指」の意味で 前肢の第4指が長くのびて飛膜の柱となっている。1・2・3指はかぎ状に退化し 第5指は消失している。ババリア地方では完全な骨格が多量発見されており 海岸や森の中でむれをなして生活したのであろう。体長約20cm。ジュラ紀後期～白亜紀前期。

25 *Botryopteris* 古生シダ類(現生シダ類の祖先系と考えられるシダ類で デボン紀中期に出現し 古生代終りまで残った)うちの1種。

35 *Archaeopteryx lithographica* 有名な始祖鳥で ジュラ紀後期 バイエルン州の Solenhofen 石灰岩から産出した完全骨格2体のうちひとつ。他の1体は大英博物館にある。基本的にはは虫類の骨格をもつが鳥類の特徴が認められるうえ 羽毛をもつので両者の中間的動物とされる。カラス位の大きさ。

70 *Odontopleurida ovata* 三葉虫オドントプリア (*Odontopleurida*) の1種。 *Odontopleurida* はカンブリア紀中期からデボン紀後期まで生息した。トゲや粒が多い装飾型の三葉虫で トゲの多いのは遊泳生活に適していたという説がある。